

平成 29 年 2 月 13 日

人間社会学研究科長 様

審査委員会

主査 中村 龍文

副査 池永 正人

副査 滝 知則

博士学位請求論文審査報告書および最終試験結果報告書

研究科名	人間社会学研究科	専攻名	地域マネジメント専攻
学籍番号	1411D03	氏名	池田 拓朗
論文題目	長崎における聖地ツーリズムに関する研究		
学位論文概要と意義			
<p>池田拓郎氏は元来、文化財や観光資源となることを企図して作られたものではない宗教的聖地 が、聖地ツーリズムといった一種の観光の対象となっている現在、その動向を検証し、聖地ツ ーリズムが成り立つ要因と地域マネジメントにおける聖地管理の方策と課題とについて明らか にすることを目的として研究を遂行した。</p> <p>研究の対象として長崎県において多数存在し、独特な歴史を持つカトリック教会群とその対 比としての寺町の寺社群を選び、ホスト側・ゲスト側双方への聞き取り調査を研究の方法と して、観光客・巡礼者・聖地ツーリズムの参加者という三者に区分して論じた。</p> <p>その結果、1) 個々の教会群でそれぞれに葛藤がみられるものの、観光資源化にはそれなりに 「群」としてまとまりを持っていること。しかし、聖地にツーリズムの要素が入ることによ って生じる倫理的問題点が明らかにされ、聖地管理の重要性と方法が問われるようになって きていること。2) 寺社群においては、観光資源化には慎重な姿勢を示しているものの、 教会群の聖地管理の課題との共通性があること。3) 聖地ツーリズムには観光の中に巡 礼の要素を、巡礼の中に観光の要素を持ち合わせていること。4) 聖地を管理していく ためにはホストだけでなく、ゲストにも多くの了解が必要になってくること。が明らか にされた。</p> <p>以上より、宗教的聖地における観光資源化の問題を解決するためには、地域社会・宗教関係 者・行政の三者が連携・協力し合うことが重要と述べている。本研究は長崎における 聖地ツーリズムの現況を明らかにし、地域マネジメントの立場から今後の課題・対応策 を明確にした点でその意義は大きい。</p>			

(様式 7)

判 定

本論文は詳細な先行研究の解析と現地調査の結果を踏まえて宗教とツーリズムの共生・共存を論理的に論じており、国策として地方創生が推進され、また長崎におけるカトリック教会群の世界遺産登録が話題となっている現在において時宜を得た研究成果であり、十分な originality を持つ博士論文に値するものと考えられる。

以上より、博士学位請求論文審査および最終試験の結果 合格 と判断した。

※下線部に合格または不合格と記入して下さい。